

東日本大震災の復興支援への取組み状況の報告

報告日：平成 23 年 8 月 10 日 (第 2 報)

支部・部会・実行委員会・登録グループ名

情報工学部会

責任者名 / 報告者名

部長 嶋田弘僧 / 小山和夫

取組みの状況 (報告済み～7月末までの検討状況、予定等含む) 2,000 字以内

1. 中間報告～7月末までの取組みについて

(1) 2011 年 6 月：部会アンケート調査実施

部会員を対象として、「情報工学の専門家としてどんな支援ができるか」をテーマとしたアンケートを実施した(期間：6月7日～6月20日)。その結果、40名から回答が得られた。結果をまとめ、7月11日に部会HPに公開した。

アンケートの内容を添付資料1に、結果の概要を添付資料2に示す。

(2) 2011 年 7 月：取組み体制の構築・・・部会 SNS の開設

アンケートの結果を踏まえ、部会としての取組み体制・内容等について協議した結果、平常の業務にできるだけ影響を与えない形で、多くの部会員に参加していただける方法として、WEB上で情報交換や議論ができる SNS(Social Networking Service)を活用することとし、7月15日に部会 SNS を開設した。

2. 今後の支部・部会としての取組みについて

*シンポジウム、被災自治体との意見交換、復旧・復興支援調査での活動予定等を記載ください。

(1) 2011 年 8 月～：取組み内容の選択と実施

8月以降、アンケート結果をベースとして具体的な取組み内容について、SNSを活用して意見交換と集約を行い、WGの設置をはじめ、できることから順次実施していく予定である。

アンケート結果から想定される取組み内容例として、下記の項目がある。

- a. IT ボランティア活動：情報通信システム復旧・復興支援ボランティア(中小企業向け)。
- b. 災害時用情報システムに関する検討：ボランティア支援、被災者情報システムなど。
- c. IT 関連 BCP 策定支援・教育：電源確保。耐震・津波対策(建物・情報機器・データ)など。
- d. 調査分析・研究・情報発信
 - ・IT 被害、風評被害などに関する調査分析研究、復興への提言、普及啓発。
 - ・情報システムの危機管理のあり方の提言等。
 - ・災害に強い IT インフラの構築や利用法に関する調査分析、分かりやすい説明や提言。
- e. IT 復興プロジェクト：現地調査に基づく IT 復興プロジェクト立案。業務執行体制作りなど。

以上

日本技術士会 情報工学部会 の皆様へ

2011年6月7日

(公社)日本技術士会 情報工学部会 部会長 嶋田弘僧

「東日本大震災」への対応に関するアンケートのお願い

3月11日に発生した東日本大震災の犠牲者へのお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

公益社団法人日本技術士会では、HPでお知らせしておりますとおり、21の技術部門の英知を結集して、被災された皆さま・地域へのできるかぎりの支援活動を行って参ります。

東日本大震災復興支援は、日本技術士会が総力を結集して取り組んでいる社会貢献活動の一つです。部会員一人ひとりのお力添えが是非とも必要です。本アンケートは、情報工学部会としてできることを集約し実践していくために実施するものです。

調査結果については会員の皆さまに公表する予定ですが、個人情報公開する予定はありませんので、ご理解ください。

ご回答は、6月20日(月)までに下記メールアドレスまでご返送くださるようお願い申し上げます。

IT_org@yahoogroups.jp

質問1 . あなたご自身について伺います

1)被災しましたか

()した

()していない

地震直後不便だったことを記載ください(例：安否確認ができない)

2)ボランティア活動に参加しましたか

()した

()していない

活動内容を記載ください(例：被災者避難所相談会に参加)

3)節電等への協力について

()している

()していない

節電内容を記載ください(例：照明の一部消灯)

4)業務としての支援

業務として緊急時の対応・支援活動等に当たられた方は、その概要について簡単に記載ください

5)私的な活動

支援活動に当たられた方は、その概要について簡単に記載ください

質問2 . 復旧・復興支援活動について、情報工学部門の専門家として、お気づきの点・問題点・課題・提案等があれば、記載ください。

質問3 . 情報工学部会では、WG を立ち上げて復興支援活動を行うことを検討しておりますが、協力できる行動について記載ください(複数回答可)

- () 1) 節電や義援金
- () 2) 技術支援などの現地での支援協力
- () 3) WG に参加
- () 4) 業務を通じて支援
- () 5) その他の協力活動について記載ください

質問4 . その他ご意見等がございましたら自由に記載ください

氏名 :

専門分野 :

E-mail :

ご協力ありがとうございました

(公社) 日本技術士会 情報工学部会

[添付資料 2] 情報工学部会アンケートの結果概要

< 情報工学部会東日本大震災復興支援に関するアンケート集計：回答数40名 >

2011年7月11日

分類	質問番号	項目	有	要約
回答者の現状	質問1-1	被災有無	21	被災3県(岩手,宮城,福島)からの回答は1、70%が首都圏在住者。被災(困ったこと)の内容は、停電、断水、電話不通、安否確認困難、帰宅困難など。
	質問1-2 質問1-5	ボランティア,私的支援	5	義援金の拠出、ボランティア活動参加(援助物資の運搬・仕分け、炊き出し、散髪、診療補助など)、被災者相談会参加。
	質問1-3	節電	37	ほとんどの回答者が何らかの節電に協力。照明の一部消灯、LED電球使用、エアコン節約、PC省電力モード、エレベータ使用節約、待機電力節約(機器不使用時コンセントから抜く)、太陽光発電など。
	質問1-4	業務支援	10	職務としてBCPを実施。内容としては、被災地の情報収集、安否確認、被災地への救援物資の輸送・仕分け、被災地物流センター復旧支援、放射線量測定、計画停電対応など。
提案	質問2	専門家提案要約	33	(1)被災地ニーズ：集約・整理された情報の確実な伝達。避難所のネット化支援・情報格差解消。ローカルTV局(災害時のローカルな情報提供)。BCP策定コンサル。現地ニーズと支援側提供メニューのマッチング。 (2)義援金：チャリティ活動(講演会など)。 (3)ボランティア：情報通信システム復旧・復興支援ボランティア(特に中小企業)。 (4)情報システム整備(災害時用ツール)：ボランティア支援サイト。被災者情報サイト。義捐金配布支援。被災情報検索。支援物資物流管理。クラウド利用災害伝言板。情報の整理・分析・発信。日本技術士会HPの「東日本大震災情報共有コーナー」や防災支援委員会HPの運営支援。 (5)BCP策定支援・教育：電源確保。耐震・津波対策(建物・情報機器・データ)。バックアップセンター。事務所・工場移転及び移転後の業務マニュアル策定。ネットワークBCP。クラウドの活用など。 (6)調査分析・研究・情報発信 ・放射性物質対策・風評被害などに関する調査分析研究、提言と普及啓発。 ・情報システムやデータの喪失が被災地に与えた影響の調査分析、情報システムの危機管理のあり方の提言等。 ・情報機器被災状況・復旧手段を調査分析し、今後の防災対策に役立てる。 ・BCPの検証。震災後のIT利用の実態、ITボランティアの活動をまとめて今後に活かす。 ・災害に強い情報通信インフラの構築や利用法に関する調査分析と分かりやすい説明や提言。 (7)ITプロジェクト：現地調査に基づくIT復興プロジェクト立案。業務執行体制作りなど。
支援できること	質問3-1	節電・義援金	35	大多数の回答者から、義援金や節電などに協力するとの回答があった。
	質問3-2	現地支援	10	10名(25%)の回答者から、現地支援が可能との回答があった。
	質問3-3	WG参加	13	13名(33%)の回答者から、WGに参加したいとの意思表示をいただいた。
	質問3-4	業務支援	14	内容は明確ではないが、35%の回答者が業務を通じて支援すると回答。
	質問3-5	その他	6	他の団体を通じて支援。SNSなどのツールを利用した支援。
その他	質問4	その他	12	(1)心構え：社会の安全安心は技術士の使命。大局的・戦略的な発想。日本の底力を世界にアピール。 (2)連携の必要性：電気電子、建設、経営工学等の各専門分野の技術士と連携したBCPの策定。 (3)WGの進め方：Skype等を利用したネットミーティングでの議論。 (4)情報をタイムリーにHP・メール等で公開して欲しい。